漢方的な健康ものさしが目指すべき将来の姿

北里大学東洋医学総合研究所　小田口 浩

研究目的・目標

未病を検知することができる**“漢方ドック”**を活用し、自然との共生に根ざした健康社会の実現。そして、漢方医学的未病に対する認識を高め、標準化された未病制御システムを構築・普及させる。

漢方プラットフォームの確立

1. 診療標準化
2. 生薬品質保証システム

漢方プラットフォームの応用

1. 漢方ドックの普及
2. 漢方ヘルスアドバイザーの開発
3. 薬剤師が生薬の品質管理をする体制の確立
4. 生薬国産化のサポート
5. 漢方を取り入れた健康産業、健康都市作りに向けた提言

研究内容

未病制御システムを構築・普及させるためには、西洋医学との融合、そして更なる科学的裏付けを付与する必要があると考え、以下の取り組みを実施。

北里COI_WEBページ 「かんぽう と みらい」

研究進捗・成果

漢方プラットフォームの確立

1-1. 漢方医学診断ロジックの形式知化

- 漢方診療の標準化
- 漢方ドックの判定アルゴリズム構築・更新
- 漢方ドックWEBアプリの開発

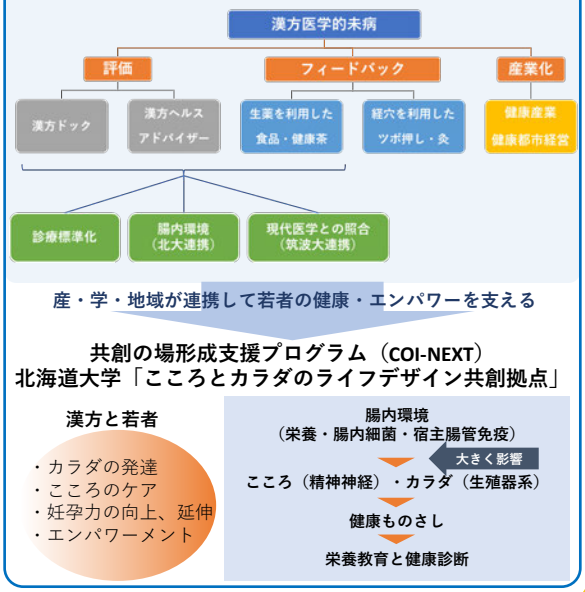
1-2. 漢方医学的未病を評価する臨床研究の実施

- 身体機能・認知機能などとの相関関係を検証し、漢方医学的所見・診断が現代医学的にどのような意義を有するのかを検討（筑波大連携）
- 脳腸相関をテーマに、αディフェンシン、腸内環境、うつ病の前段階（未病状態）、漢方薬服用の関係を探索的に検討（北大連携）

2.　生薬品質保証システムの確立

- 生薬品質評価法の確立
- 品質評価マップの作成
- 生薬「呉茱萸」の製品化

漢方プラットフォームの応用：COI



幸せの共感をつくる。
empathy of happiness
食と健康の達人